

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
事業名	985	小学校スクールバス運行事業	01	01	一般会計
基本施策	31	個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	10	10	教育費
			02	02	小学校費
			01	01	学校管理費
担当部課名	教育部 学校教育課		101	101	学校管理経費
作成者氏名	加納圭子	連絡先	22-9676	02	スクールバス運転管理及び維持経費

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	スクールバスを導入している小学校の児童及びその保護者	スクールバスで登下校することによって、子どもたちの安全を確保することができ、保護者の方々が安心できます。
本年度事業内容	1. スクールバス運行 2. スクールバスの維持管理	
開始年度	平成 年度	終了年度
	平成 年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.08	0.05	0.05
	人件費合計(A)	576	360	360
②支出内訳(千円)	事業費(B)	71,041	77,085	77,085
	委託料	66,450	72,234	72,234
	報酬	3,514	3,693	3,693
	その他	1,077	1,158	1,158
合計(A+B)		71,617	77,445	77,445
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金	13,820	15,298	15,298
	地方債			
	受益者負担			
	その他特財	10		
	一般財源	57,787	62,147	62,147
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
スクールバス運行校数	校	5	5	5			
スクールバス利用対象者数	人	302	375	375			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
登下校時の子どもの安全を考慮した要望に対して、スクールバス導入実現率	スクールバス導入に関しては、学校と保護者、そして、自治会単位の要望がひとつになったとき実現します。通学距離はひとつの基準になりますが、その他、児童数や通学路の状況、地域の支援等が必要ですので、そうした協議がまとまったときに導入となります。学校と家庭、地域のままりが必要ですので、指標としました。	%	83 目標 ( 100 )	100	100
			目標 ( )		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

<p>通学距離と通学路を確認しながら、保護者や地域の要望を十分把握し、登下校の手段としてスクールバス導入を進めています。今後、子どもの安全をふまえて新たな要望があった場合には、通学距離等により一定の基準のもと、導入を考慮していきます。</p>
---

評価	必要性	4	総合評価
	有効性	4	
	達成度	3	
	効率性	4	
学校までの通学距離が3km以上になる地域において、スクールバスを導入しています。今後は、校区の再編が進むと通学距離の関係でスクールバスの導入が必然的に起こってきます。児童の活動を規制してしまうことなく、また、通学の安全を十分確保するために学校、家庭、地域との慎重な協議のうえ、導入していきたいと思ひます。			A